

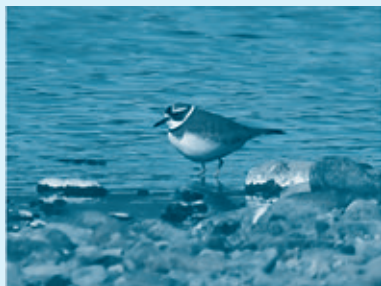
森林レンジャーがゆく (140)

「春なるダンス」

春を迎えるこの頃、今冬を振り返ると昨年の夏と同様に、渡り鳥の少ない状況が目立ちました。代表的な冬鳥であるシメやツグミは遅れて年末頃にあきる野に飛来しましたが、今までにないほど数が少なかったです。渡りルートが変わってしまったのでしょうか…。単なる自然の変動に過ぎないかもしれませんが、自然の急速な変化により、昔の自然を基準にすることができなくなっています。

特に山では鳥の鳴き声を聴く機会が少なく、当然ながら虫の音が聞こえる時期でもありませんので、立ち止まって休憩すると、圧倒的な「シーン」という静かな状況になることが多いです。悪く言えば、例年よりも寂しげ、よく言えば、「無」になれるほど、不思議と穏やかな気持ちになります。

河原などの平地でも、やはり冬鳥が少ない状況です。河原と言えば、広いススキ原などのイメージが強いですが、特に多摩川の河川敷は徐々に樹林化し、その他にも土手の改良といった工事や、豪雨による増水などを理由に、他の環境よりも変化が多いです。夏は緑が奥深く人を寄せ付けない自然豊かな河原ですが、冬は見通しがよくなり、気軽に散歩などができる気持ちのいい環境です。そして多くの小動物の住処となる中、野鳥は観察しやすく、冬鳥が少ない年であっても、他の季節なら普段気づけないイカルチドリやイソシギなどの存在を意外と簡単に見つけることができ、綺麗なジョウビタキやカワセミなどの定番の野鳥にも出会える場所です。遠く



イカルチドリ

にそびえる山なみを眺められるあきる野の河原は、身近で美しい自然に恵まれた地域である証です。

冬を振り返ると同時に、まだ始まったばかりの2025年は色々な意味で、人間界でも、自然界でも平和で明るい年になることを願いながら私も頑張っていきたいと思います。

(パブロ)